

# 平成27年度 林野公共事業の事業評価(完了後の評価)に係る 技術検討会 議事概要

## 1 日時

平成27年8月3日 13:15～14:45

## 2 会場

(会議) 群馬県多野郡神流町万場40  
神流町コイコイアイランド会館 多目的ホール

## 3 出席者

技術検討会委員 谷本丈夫委員長、梅田修史委員、葛城奈海委員、  
執印康裕委員、淵上勇次郎委員

関東森林管理局 森林整備部長、森林整備課長、森林整備課課長補佐  
森林整備課路網計画係  
企画調整課長、監査官、監査係長  
群馬森林管理署次長、総括森林整備官、森林整備官(土木)  
檜原首席森林官

## 4 議事概要

### ○完了後の評価全般について

- (委員) 資料1-1から1-3の路網整備の事業量を見ると、開設延長が6km程度、改良が3km程度となっているが、事業費のうち、路網の費用はどれくらいか。例えば、資料1-3では事業費が約13億8千万円となっているが、そのうちどれくらい路網に費やされているのか。
- (関東局) 4億6千万円程度であり、森林整備については9億2千万円程度となっている。
- (委員) 路網整備の改良事業の中身はどんな事業なのか。
- (関東局) 改良事業は、災害箇所のうち災害復旧事業としての要件を満たさなかったもの等である。
- (委員) それぞれ地元自治体の意見を見ると、これからも事業を続けてほしいというような要望が出ている。いくつかの自治体にまたがって行われる事業の規模としては、非常に小さいかなと思ったりする。事業規模が小さければ、継続して何かをやる、というようなことも必要かと思う。地元の期待も大きいと思うが、どうか。
- (関東局) 森林整備事業の事業規模としては必要なものを行っているところ。財政事業が厳しくなってきたが、我々としてはしっかりやっていきたい。
- (委員) 事業採択時の総費用が想定より高くなるのはわかるのだが、福島署については総費用がかなり減っている。事業採択時に47億円だったものが、26億程度になっている。これは何か企業努力で費用が少なくなったのか。
- (関東局) その時々優先順位を付けながら事業を採択していくものであり、林道よりも造林・保育に予算をまわしたことにより、林道予算が絞られ、予定した費用には至らなかったところ。

(委員) 資料 1-1(阿武隈川森林計画区)の⑤社会経済情勢の変化の中に、「放射性物質の影響を受けた森林環境の回復を推進するとともに地域の生活基盤の復興に寄与することとしている」とあるが、現在の森林環境の回復状況というのはどの程度なのか。

(関東局) 除染の関係は、各市町村が除染計画を作り、国有林もその計画に従って行うこととしており、住居等から20mまでの区域などで行っている。

地元市町村からは、民有林も国有林も山を全部除染してほしいという話もいただくが、土をどこに持っていくかという問題や降雨による土砂流出などの問題もあり、そう簡単にはできないと考えている。なお、来る林業の再開に向けた準備として、実証事業を実施している。

## ○評価対象案件について

(委員) 今回評価対象となっている完了後の評価3件について、提示された評価案で特に問題はないと考える。